

異業種からの転職

ファイザー株式会社 北大阪医薬支店

山口 真樹

食品総合卸商社に勤務していた私はその仕事に誇りを持ち日々活動していました。そんな私が転職した理由は長男の誕生でした。息子は先天性心疾患を持って生まれました。私も妻も現実を受け入れ難い心境でしたが、出産でお世話になった先生に国立循環器病センターを紹介いただきました。息子は入退院を繰り返し、一歳になる前に手術を受けました。

当時、「30年前では困難な手術だったが成功率は格段に増しました。しかしリスクは高いです。」と先生から手術内容・方法、使用薬剤、合併症など詳細な説明を受けました。幸いにも息子の手術は成功し、経過もよく、手術の跡も思った以上にきれいなものでした。その時、私は医療機器の精度の向上、医薬品の進歩と情報量の増加、そして先生方並びにスタッフの方々の知識と技術の向上の賜物と感謝しました。しかし同時期に同じ疾患を持った患儿さんが同様の手術を受けて亡くなるといった耐え難い経験もしました。

今年、元気に11歳を迎えた息子の誕生により、私は貴重な経験をしました。この経験を機に「私も医療に参加できる仕事がしたい。一人でも多くの患者様を幸せにしたい。」と強く思うようになりました。私は「人の役に立つ仕事」が特集されていた就職情報誌にあったMR(医薬情報担当者)という職業に惹かれました。

「MR」とは、医師・薬剤師の先生方に対して患者様の治療に役立つ医薬品の情報を適切に先生方に提供し、副作用等の情報を収集する事が主な仕事です。その情報を基に先生方はリスクとベネフィットのバランスを考えて患者様ひとり一人に合わせた治療を実施されます。

今まで先生方は何気なく処方しているように思っていた薬もその疾患・薬剤の情報を基に処方されていることを知りました。MRになって今まで見えなかった物事が見えるようになりました。私が一番驚いた事は先生方の仕事量の多さです。

MRになる前は、先生方はちょっと働いて「お金儲け」をしているように感じていました。しかし実際は全く異なっていました。先生方は午前の診察のあと食事を取らずに往診や回診、そのまま午後の診察に突入するケースも多く、検査・手術などを施行される多忙な日々を送った上で夜間当直・休日業務もこなしている状態でした。大学病院や基幹病院に至っては更に研究もされている状態です。また休日も患者様の治療に有用な知識・技術の向上のため、講演会や研究会・学会などに出られています。患者としては見ることのできない医療の世界を知りました。

多忙な先生方に少しでも患者様に役立つ情報を提供するためにMRは先生方を訪問しています。転職前に私自身も感じていた先生方を取り巻く異様なスーツ軍団が主にMRです。怪しい光景ですが実際は厳しい規制(法律や規約など)の中で活動しており、違反すると厳格に処罰されます。患者様のことを常に考えている先生方に最新の情報やエビデンス・文献・副作用情報等を提供することによって、一人でも多くの患者様の症状が「改善した」「治った」、極めつけは「患者さんが喜んでいたよ」と先生から聞いた時「MRになって良かった」と強く思い、患者様の治療に貢献できる「喜び」を感じています。

MRは裏方です。先生方にお伝えした適切な情報により一人でも多くの患者様が救われることを願い、日々活動しています。数多くの製薬企業がありますが「MR」として志は同じではないでしょうか。私は前職以上に誇りを持ってMR活動に取り組んでいます。

今から先生方のもとに情報提供に伺います。常に患者様の立場を考えて、患者様に役立つ情報を提供し続け、「MRになって良かった」という「喜び」を今後も一つ一つ積み重ねていきたいです。

(MR経験 7年)